

電話

人間は厄介なものを嫌い

また厄介なものを好む

人の介入を逃げたがるくせに

人との繋がりが不安で仕方がない

それでも電話という煩わしい機械は

飛ぶように売れる

煩わしさをいち早くもたらす音声を

誰もが今か今かと待ち望んでいるかのようだ

吉報であるか怯えや恐れの種類であるか

あの銀色の箱をいつに広げるまでは

誰にも分からないのだが

心を白紙にして穏やかにハイと返事をする

期待と不安が動かす指で番号を押し

相手の声音が響き出す瞬間を

上目遣いに待つ

そこに相手が居るようにお辞儀を繰り返したり

キスのように囁きかける人もいる

電話で持ち主の世界が広がっているのだろうか

電話が持ち主を所有してしまっているのだろうか

今日もまた至る所で電子音がメロディを奏で

バイブレーションが胸をノックしている